

### (3) 環境構成

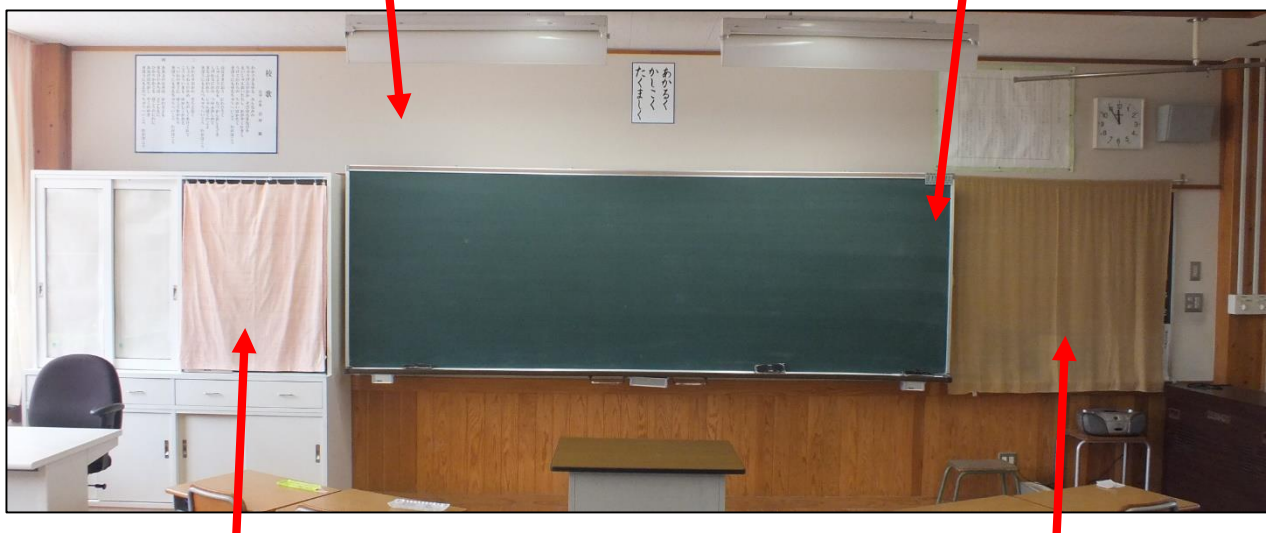
授業のユニバーサルデザイン化を目指す上で、学習に集中できる環境づくりは欠かせない。「教室環境」「チーム支援体制」「学び合う集団」をつくるために、次のような取組を行った。

#### ◆教室環境づくり

学習に集中できるように、情報量を制限し、教室前方をすっきりとさせることを共通実践した。具体的には、次のとおりである。

教室前面には、できるだけ掲示物をはらない。

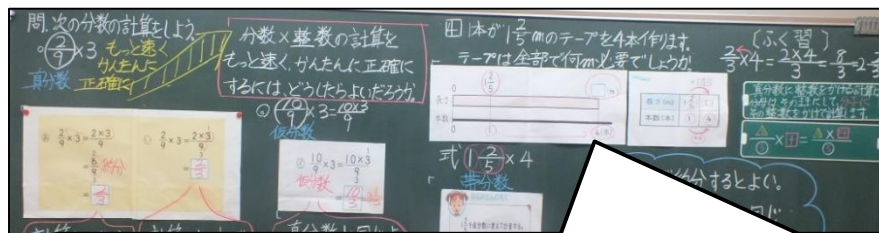
黒板には、日付等を書かない。



教室前方にある教師用の棚。カーテンなどを取り付けて棚の中が見えないようにしたり、棚の中に物を置かないようにしたりする。

教師前方にある時間割黒板は、授業中は、カーテンで見えないようにする。

また、視覚的支援のための資料等の準備を積極的に行った。



授業の開始と終了の時刻を、視覚的に捉えられるようにした。(低学年用)



【授業で使われた視覚的支援のための掲示資料】

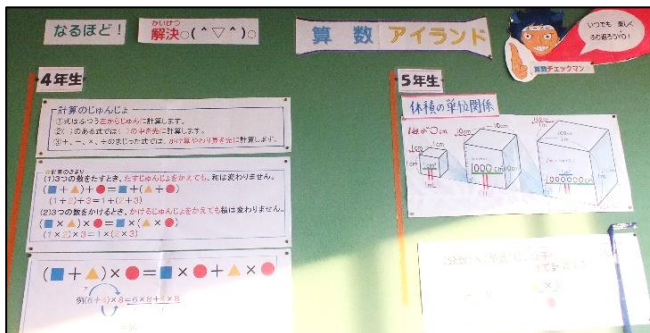
さらに、算数コーナーを設置したり、フラッシュカードを作成したりして、いつでも学習への関心や意欲を高めたり、既習内容の習熟を図ったりすることができるようにした。



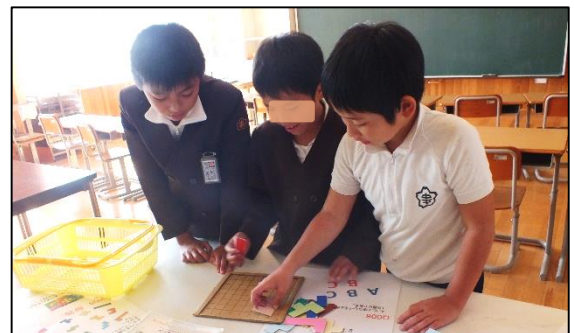
【算数コーナー（1F）】



【算数コーナー（2F）】



【授業で使った資料等が掲示してある算数コーナー】



【休み時間の算数コーナーの様子】



【算数のフラッシュカード（3年生用）】

算数科の全学年分のフラッシュカードを作成し、各学年の教材・教具棚に置いて、いつでも使えるようにした。復習を中心に、繰り返し何度も使いながら、基礎的・基本的な内容の習熟を図った。

## ◆チーム支援体制づくり

職員間の連携を密にして、チームで指導にあたるようにした。また、学年の実態や単元の内容によって、少人数指導とTT指導とを使い分けるようにした。保護者には、担任が学級PTAの場や学級便りにおいて理解をもとめた。

学年によっては、1つのクラスを3つに分けて行った（写真は5年生の授業風景）。



### 【ぐんぐんコース】

大きな集団の中で一斉指導を行う。多様な考えを引き出し、みんなで練り上げていく。子供同士の学び合いが中心。



### 【じっくりコース】

全員が教師と同じ距離の座席で、すぐにかかわることができる。少人数で支援員もつき、きめ細かい指導が可能。



### 【ていねいコース】

個別指導に近い形態。理解状況を一一つ確認しながら進めていくことができる。個別に違う課題を与えることも可能。

平成 28 年 5 月 2 日  
少人数加配 福岡

加配の役割、入り方について

今年度は、主に4・5・6年の算数、6年の国語に入ることになりました。共に協力して一人一人の子どもたちを育てあげられるように、頑張りたいと思います。

担任・加配・支援員の役割分担

- ① 学習の指導形態として、TTの場合は基本的に主担任となります。学習内容によっては、少人数指導を積極的に活用します。  
※ 習熟度に応じた指導を行うので、応用段階まで取り扱うグループを「じっくりコース」、更に個別に丁寧な指導を行うグループを「ていねいコース」とし、児童と保護者の理解を促しながら進めます。コース分けは担任の担任だけで決められるのではなく、担任・加配・支援員など関わる職員全員がチームとして、複数の目で見て、話し合って決めます。
- ② 大きな学習プランは、担任が計画し、加配との打ち合わせで細かい指導を準備します。
- ③ 授業の最終評価は、算数領域は前回の様子で準備します。数と計算領域などは担任の方で準備をお願いします。  
※ 加配との打ち合わせで、役割分担をしていきます。
- ④ 単元テストの採点は担任が行い、その後の点数入力と簡単な分析、補完プリント等は加配で準備します。
- ⑤ 支援員は、気になる児童への支援のほか、練習問題等の採点や加配と一緒に資料準備等の手伝いをお願いします。
- ⑥ 習熟度プリントは担任の考えで出されると思いますが、こんなプリントが欲しいという要望があれば加配へ相談してください。

※ 少人数指導コース分け（授業）

- ① 新しい單元に入る前に準備テストを実施し、担任で気になる児童を各案にチェックする。（担任が実施可能）
- ② 第1回は、担任からの名簿（チェックリスト）を元に、「担任・加配・フリープラン・支援員」の複数の目で確認する。
- ③ 第1回終了後に打ち合わせ（担任・加配・フリープラン・支援員）を実施し、第2回以降の進め方の共通理解を図る。打ち合わせについては、授業後に行う。担任に負担をかけないようしたいと考えています。話し合いを促すことが大切です。
- ④ 少人数に分ける際、担任は必ず児童や保護者との確認をする。児童の意思を尊重し、コース分けを重めていく。

1～6年の様子を見させていただき、児童の実態から6年生は少人数指導（3コース分け）4・6年生は担任を基本としています。話し、調整や児童の実態に応じて少人数指導を行いたいと思っていますので、使い分けをお願いします。6年生は数科準備がセットになります。早めの資料準備をお願いします。どの学校も充実した教材準備をしていただきたいので、ご協力をお願いします。ご質問、ご意見などございましたら、より良い指導、授業をしていきますよう。

少人数・TT指導の基本的な考え方を示した資料（職員用）

授業後の職員（担任、加配、専科、支援員）の連携

授業参観後の保護者の感想（県民週間のアンケートより）



子どもたちがいきいきと発表をしていてとても楽しかった。ペアワークの話し合う場面が多くあり、意欲が高くていたように感じた。

算数の授業で、少人数クラスの参観をして、一人一人に拍手していただけ、とてもうれしく思います。途中、フタを開けた所も出た方になり、子供も喜んでいました。ありがとうございます。

### ◆学び合う集団づくり

よりよい学習環境にするためには、子供同士を学び合う集団にする必要がある。具体的には、学び合う雰囲気や醸成したり、互いに磨き高め合うような主体的な学び合いの場を設定したりすることである。その際、次の大きく2つの取組（「授業のきまり7」「話し合いの進め方ガイド」）を行った。

中平の みんなで取り組もう！

**授業のきまり7**

- ① 次の時間の準備をすませてから、休みましょう。
- ② つくえの上の道具の置き方を守りましょう。
- ③ 名前をよばれたら、必ず返事をしましょう。
- ④ いすをひいてその場に立ち、発表しましょう。
- ⑤ みんなにきこえる大きき声で発表しましょう。
- ⑥ 発表する人にゆさむけてききましょう。
- ⑦ 正しいしせいを守りましょう。

つくえの上の道具のおき方

右きき用

左きき用

子供と教師が、授業のきまりについて共通理解し、実践するためにつくった「授業のきまり7」。これを守ることで、どんなよいことがあるかを考えさせ、意識付けを促した。どの教室も、右側側面に掲示した。分かりにくかったところは、写真もつけるなど改善を図ってきた。

学習指導においては、ポイント④（P. 10 参照）にあるように、意図的に学び合う場面を設定している。右のようなシートを活用し、子供同士での学び合いが充実するようになった。

**はなしあいのすすめかたガイド(ていかくねん)**

※ 実践されてみて、より良い案等があれば教えてください

- I はなしあいかつどうのやくそく
  - 1 はなしあいがうまくいくように、みんなできょうりよくしましょう。
  - 2 じぶんのかんがえを、みんなにくわしくはなしましょう。
  - 3 ともだちのはっぴょうは、さいごまでききましょう。
- II はなしあいのすすめかた(しかいしゃ)
  - 1 ○○さんからかんがえをはっぴょうしてください。
  - 2 みんなのかんがえにおなじところはどこですか。また、ちがうところはどこですか。
  - 3 おなじかんがえはどれとどれですか。
  - 4 このなかで、「こたえをはやく・かんたんに、ただしく」だせるものはどれですか。
  - 5 かんがえをまとめてみましょう。

◆ はなしあいにはいるまえに、しかいしゃとはっぴょうしゃをききましょう。(みんながしかいしゃはっぴょうができるようにしましょう。)

◆ はなすじゅんばんをきめましょう。(みぎから、ひだりから)

◆ 1～5をつかって、はなしあいをじょうずにすすめてみましょう。